



平成 28 年 4 月 28 日

各 位

会 社 名 ジオスター株式会社
代 表 者 名 代表取締役社長 栗山 実則
(コード番号 5282 東証第 2 部)
問 合 せ 先 執行役員
経営管理本部経理チームリーダー
古橋 義孝
(TEL 03-5844-1201)

業績予想の修正に関するお知らせ

最近の業績動向を踏まえ、平成 28 年 2 月 8 日に公表いたしました業績予想を下記の通り修正いたしますのでお知らせいたします。また、同日公表しておりました特別損益（「関係会社株式売却益」及び「固定資産売却損」）の金額が確定しましたので、併せてお知らせいたします。

記

1. 平成 28 年 3 月期通期業績予想数値の修正（平成 27 年 4 月 1 日～平成 28 年 3 月 31 日）

① 連結業績予想数値の修正

(金額単位：百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に帰属する当期純利益	1 株当たり当期純利益
前回発表予想 (A)	26,000	710	730	600	19 円 18 銭
今回発表予想 (B)	26,689	1,119	1,142	1,203	38 円 46 銭
増減額 (B - A)	689	409	412	603	—
増減率 (%)	2.7	57.6	56.4	100.5	—
(ご参考) 前期実績 (平成 27 年 3 月期)	19,887	△325	△276	△267	△ 8 円 56 銭

② 個別業績予想数値の修正

(金額単位：百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1 株当たり当期純利益
前回発表予想 (A)	20,500	1,020	1,050	960	30 円 69 銭
今回発表予想 (B)	21,232	1,414	1,451	1,320	42 円 21 銭
増減額 (B - A)	732	394	401	360	—
増減率 (%)	3.6	38.6	38.2	37.5	—
(ご参考) 前期実績 (平成 27 年 3 月期)	14,503	△78	△22	△510	△16 円 32 銭

(業績修正の理由)

連結売上高は、当社セグメント製品及び防潮堤製品の売上が前倒しとなったこと等により、対前回予想 2.7%増の 266 億円となる見通しです。(個別の売上高は対前回予想 3.6%増の 212 億円の見通し)

連結営業利益、連結経常利益につきましては、上記増収に伴う利益増に加え、工場安定生産の継続や原価低減努力等による売上総利益率の改善、また、販管費の減少が見込まれることもあり、営業利益は対前回予想 57.6%増の 11.1 億円、経常利益は対前回予想 56.4%増の 11.4 億円となる見通しです。(個別の営業利益は 38.6%増の 14.1 億円、経常利益は 38.2%増の 14.5 億円の見通し)

また、親会社株主に帰属する当期純利益につきましては、上記の増益要因に加え、特別損益・税金費用・非支配株主に帰属する当期純損失のすべてが前回予想から好転する見込みであることから、12 億円(対前回予想 100.5%増)となる見通しであります。(個別の当期純利益は対前回予想 37.5%増の 13.2 億円の見通し)

2. 特別損益の計上及びその内容

平成 28 年 2 月 8 日付「特別損益の計上及び通期業績予想の修正に関するお知らせ」にて公表の通り、当社の連結子会社であったレスコハウス株式会社の株式の全部を株式会社桧家ホールディングスに譲渡したことにより、平成 28 年 3 月期決算において、連結で 447 百万円、個別で 417 百万円の特別利益(「関係会社株式売却益」)を計上することになりました。(前回公表は約 4.1 億円)

また、当社が保有し、当社の連結子会社であったレスコハウス株式会社に賃貸している工場用地を株式会社桧家ホールディングスの傘下となったレスコハウス株式会社に譲渡したことにより、平成 28 年 3 月期決算において、連結で 60 百万円、個別で 78 百万円の特別損失(「固定資産売却損」)を計上することとなりました。(前回公表は連結で約 61 百万円、個別で約 79 百万円)

なお、当該固定資産除却損は、他固定資産の除却損とあわせて、全体では「固定資産除却損」(連結 91 百万円、個別 108 百万円)として計上致します。

(注) 上記予想は、現時点において入手可能な情報に基づき判断したものであり、実際の業績は、今後様々な要因によって予想数値と異なる可能性があります。

以 上